上海のクルーズターミナルから
発着する巨大クルーズ客船

池田 良穂（大阪経済法科大学 客員教授）の
新クルーズ学 9

急成長する中国のクルーズマーケット

昨年10月、再開した本コラムの第1回目に「中国から大挙押し寄せる大型クルーズ客船」として「中国のクルーズが急成長して、そのクルーズ人口が200万人を超えた」と紹介しました。

この6月に、長崎県のクルーズ需要予測調査にアドバイザーとして同道する機会に恵まれて、上海のクルーズ研究所と欧米のクルーズ各社の中国支店を訪れ、クルーズの現状および将来予測についてヒアリングする機会に恵まれました。

まず驚いたのが、昨年の中国のクルーズ人口が477万人に達したということでした。500万人目前の数値で、もうすぐ欧州マーケットを追い越しそうな勢いです。たしかに、数年続いた40%台の高成長率は減速して29%にまで落ちたとのこと。さらに今年もその減速状態が続くとの予想でした。

このクルーズマーケットの成長の減速は、欧米各社の巨大船が中国市場に次々に投入されたことから、中国内でクルーズを販売する旅行代理店での販売能力ぎりぎりに達して混乱したことにあり、需要は底堅いにもかかわらず調整期間になってしまったためで、すぐに需給がバランスして、将来的には10―15%の安定的な成長に落ち着くと見立てでした。各社は、調整期間中はよりよい利益が得られるオン・シーズンの水域を求めて船を移動させて、南中国、東南アジア、オセアニア発着などでのクルーズを組み合わせることになるようです。

2030年には中国のクルーズ人口は1千万人を超えて、北米に次ぐ巨大クルーズマーケットに成長し、中国で建造される予定の6隻の巨大クルーズ客船も、中国人マーケットにクルーズを提供するようになりそうです。

中国ではクルーズだけが急成長しているわけではありません。所得の向上に伴って、海外旅行全体がブームになっており、国民の10%あまりが海外旅行に出かけており、その中では飛行機で行くほうがボリュームとしてはるかに大きいのが現状です。日本の海外旅行ブームに火がついたのは40年近く前で、その時には飛行機だけが海外旅行の手段でしたが、中国での海外旅行ブームでは、飛行機に加えてクルーズ客船という選択肢が増えていました。しかも、憧れの海外である日本が、船でも丸1日で着ける距離にありました。

現在、中国発着のクルーズの70%あまりが日本の港に寄港しています。したがって、30年には1千万人のクルーズ人口のうち700万人以上が船で日本を訪れることになりそうです。今から、その受入対策を練っておくことが必要でしょう。